

2025 年 1 月

患者さんご家族の方へ

ろ過型人工腎臓用補液への注射用カリウムの添加（適応外使用）について

救急・集中治療科では ICU 病棟での持続的血液濾過透析時、低カリウム血症の重篤化を防ぐために、ろ過型人工腎臓用補液へ KCL 注を添加し、投与することがあります。この治療法は適応外使用に該当しますが、必要時に速やかに行う必要があるため、各患者さんにご説明して同意をいただく代わりに、お知らせをしています。詳しくは以下をお読みください。

この治療についてご質問がありましたら、いつでも遠慮なく、担当の医師、看護師または薬剤師までお尋ねください。

対象	当院 ICU において、持続低血液濾過透析を受けている際に低カリウム血症が認められた方
目的・概要	持続的血液濾過透析に用いるろ過型人工腎臓用補液に含まれるカリウム濃度は血液中の濃度よりも一般的に低いため、透析を継続することで低カリウム血症が生じる恐れがあります。低カリウム血症は重篤な不整脈等を誘発する場合があります、治療が必要となります。治療には注射用カリウムを点滴静注しますが、透析を行っている患者様には補液の点滴が制限されることが少なくありません。ろ過型人工腎臓用補液に注射用カリウムを加えることで、低カリウム血症の改善が期待できることがあります。そのような現状から、当院 ICU において、持続低血液濾過透析を受けている際に低カリウム血症が認められた方で、医師が必要と判断した場合、適応外使用としてろ過型人工腎臓用補液へ注射用カリウムを添加し投与することがあります。

実施期間	2026 年 1 月から開始します。
使用条件	投与は ICU 病棟に限定し、投与する看護師や臨床工学技士が必要時は医師へ速やかに連絡できる状況下で実施します。ろ過型人工腎臓用補液への KCL の添加は、看護師や臨床工学技士がダブルチェックした上で実施します。必ず心電図モニターを装着します。必ず血液検査を行い、血清カリウム値等を確認します。
予想される不利益	予想より血液中のカリウム値が上昇し、重篤な不整脈や心不全をおこす恐れがあります。
予想される不利益への対策	必ず心電図モニターを装着して観察・管理し、定期的に血液中のカリウム値を確認します。心電図で異常が確認された場合や、予想以上にカリウム値が上昇した場合には、速やかにカリウムの添加を中止します。多くの場合は減量や中止でカリウム値は低下しますが、必要に応じてカリウム値を下げる薬剤や不整脈に対する治療薬を使用するなど適切に対処します。
治療費	この治療にかかる費用は通常の保険診療と同じです。この治療による副作用が生じた場合も保険診療になります。国の医薬品副作用被害救済制度の給付対象外となる可能性があることをご承知おき下さい。

この治療（適応外使用）を行うことは、未承認新規医薬品評価室にて評価され承認されています。

〒983-8512 宮城県仙台市宮城野区福室一丁目 12 番 1 号

東北医科薬科大学病院 医療安全管理部 未承認新規医薬品評価室（事務局：薬剤部） 電話番号：022-259-1221(代表)